

関西国際大学コミュニケーション研究所
コミュニケーション研究叢書 第6集 (2008年2月)

小学校英語活動に対する保護者の意識調査
—期待と協力を中心に—

Parental perception of English activities at elementary schools
—focusing on expectation and involvement—

牧野 眞貴

Maki MAKINO

小学校英語活動に対する保護者の意識調査 —期待と協力を中心に—

牧野 眞貴¹

Maki MAKINO

1. はじめに²

2002年度より「総合的な学習の時間」が新設され、多くの公立小学校で英語活動が導入されるようになった。文部科学省の調査によれば、平成18年度の公立小学校での英語活動実施率は95.8% (21116校)、学年別では、6年生20576校、5年生校20173校、4年生19975校、3年生19755校、2年生17579校、1年生17401校と、高学年だけではなく低学年児童に対しても英語活動が実施されていることが報告されている。早期英語教育熱が高まる中、保護者は小学校英語活動に何を期待し、子どもの英語学習をどのように支えていくのであろうか。保護者の英語活動に対する意識を学校が把握し、活動への理解を求めることで、子どもに快適な学習環境が整えられ、より円滑に英語活動が進むであろう。今後の小学校英語活動では、保護者のかかわりもテーマの一つになるのではないか。

2. 早期英語教育に対する保護者の意識

Brewsterら(2002)によると、親は子どもたちのより良い未来のために、学校での外国

¹ 関西国際大学コミュニケーション研究所共同研究員 関西国際大学非常勤講師

² 本稿は平成19年度文部科学省「社会人学び直し」委託事業『小学校英語活動指導力向上講座』で講演した内容を加筆・修正したものである。

語教育が必須であると考えている一方、親が子どもに求める外国語習得のスピードや量は非現実的で、外国語の授業を1年受けると子どもがバイリンガルになるというような期待も珍しくないとしている。

日本では小学校英語活動や、幼稚園や保育園での英語活動導入増加、民間英会話スクール早期英語プログラム開発などの影響により、親たちの間に広がる「早期英語教育は効果的である」という考えとともに、子どもに早期から英語を学習させると親が安心するという現象が見られている。牧野(2007)では、幼児期から子どもを英語教室に通わせている母親100名を対象に、早期英語学習の目的および小学校英語必修化の賛否についてアンケート調査を実施した。その結果、早期英語学習の目的は、受験や小学校英語必修化を意識したものではなく、英語でのコミュニケーション能力向上であり、母親の英語に対する劣等感や英語話者への憧れがそれを後押ししていることがわかった。また、小学校英語必修化については賛成はするものの指導内容や成果については不安だとしている。現在、小学校英語活動の内容は全国的に統一されておらず、指導者についても一定の資格・基準が無い。このような状況では、早期英語教育に前向きな親が不安に思うことは当然である。親が安心して見守ることにより、子どもは英語学習に対して前向きな姿勢を見せるのではないか。

3. 保護者の協力

親が子どもの外国語学習に興味を持つことは十分に理解できる。その興味を協力に変え、子どもを支えることが効果的な学習につながるであろう。

親の協力として、Dunn(1994)は、親は母語獲得と同じように子どもを見守り、励まし、良い学習の機会を与えることができ、子どものしていることに興味を持ち、それを支えることが子どもの学習意欲を高めるのに重要だとしている。Brewsterら(2002)は、子どもの外国語学習が進むにつれ、親は益々自分がどのようにそれに協力すれば良いかを尋ねるようになり、親の外国語知識が十分でなく、子どもの学習へのかかわりが難しく不安に思う場合でも、十分に協力は可能で子どもを励ますことができるとし、そのような親を対象とした学校でのペアレントトレーニング³を提案している。

日本の小学校英語活動への保護者の協力について、永井(2001)は、子どもの周りにい

³ 学校が親に、パンフレット配布、参観実施、会議やワークショップ参加などで子どもの外国語学習について理解を求め、どのようにサポートするかを教える

る大人が英語教育に対して同じ姿勢で理解し合い、協力することは子どもの学習意欲を高めるのに大切で、家庭においても、保護者と子どもとの間で気軽に英語を交わしたりする機会が多くなり良いとしている。小西(2006)は公立小学校3年生の保護者を対象とした英語活動に対する意識調査を実施し、保護者の30%が小学校英語導入において、必要であれば授業の協力やボランティアをするという肯定的な結果を得ている。

親が積極的に子どもの英語学習をサポートすれば、子どもが英語学習に意欲的になり、教室という限られた英語環境から、家庭や地域社会でも英語に触れ、遊びやコミュニケーションの手段として英語が身近なものになると言えよう。

4. 研究の目的

本稿では、小学校英語活動に対する保護者の意識を明らかにし、保護者が子どもの英語学習に協力し、学校と保護者の連携で子どもにとって快適な英語学習環境が整えられるよう、今後の小学校英語活動に提言することを目的とする。

5. 調査方法

本研究における調査方法は2007年8-9月に配布した質問紙への回答を分析する形式で実施された。その後2007年9月に質問紙回答者の中から5名に協力を得てインタビューを実施し、疑問点を詳細に尋ねた。調査対象者、分析方法については以下に示す通りである。

5. 1. 調査対象者

大阪府の公立小学校に子どもを通わせている母親30名。子どもは全員幼児期より民間の英語教室で英語学習を始め、質問紙回収時においても継続して教室に通っていた。母親の60%が英語苦手意識を持っているが、それにもかかわらず87%が子どもの英語教室での学習に協力をしていると回答している。

インタビューについては、異なる小学校に通う5名の子どもの母親に協力を得た。子どもたちの学年は1-5年生と学年に偏りが無いよう配慮した。

5. 2. 分析方法

全回答を集計し質問項目の比較検討を行い、自由記述回答およびインタビューの結果を合わせて内容分析を行った。

6. 結果

以下回答数の単位は人数とする。

6. 1. 英語活動内容報告について

①お子さんの小学校では英語活動が導入されていますか？

はい	23	いいえ	7	わからない	0
----	----	-----	---	-------	---

①-1 「はい」を選択された方にお聞きします。

①-1a お子さんは小学校英語活動について家庭で話をしますか？

はい	16	いいえ	6	わからない	1
----	----	-----	---	-------	---

①-1b 学校から英語活動の内容説明を受けていますか？

はい	3	いいえ	19	わからない	1
----	---	-----	----	-------	---

②小学校英語活動（実施されていない場合は、もし始めれば）の内容を知りたいですか？

はい	27	いいえ	3	わからない	0
----	----	-----	---	-------	---

②-1 「はい」を選択された方にお聞きします。どれぐらいの頻度で活動報告を受けたいですか？

毎回	0	1回/月	13	1回/学期	13	1回/年	1
----	---	------	----	-------	----	------	---

③英語活動を参観したいですか？

はい	21	いいえ	5	わからない	4
----	----	-----	---	-------	---

③-1 「はい」を選択された方にお聞きします。どのような参観を望まれますか？

自分の子どものクラスを参観	20	親子活動で自分も体験	1	他のクラスの参観	0	その他	0
---------------	----	------------	---	----------	---	-----	---

母親は子どもの英語活動内容に非常に興味を持っており、学校から定期的に報告を受けることや英語活動の参観を希望している。しかし、現状では小学校から活動内容の説明はほとんどされておらず、母親は子どもを通して英語活動の情報を得ていることがわかる。母親へのインタビューによると、3校では学校便りに英語活動の日程が記されているが、内容については全く触れられておらず、また2校では英語活動の日程すら知らされていないと言う。子どもからの情報は、「外国人の先生が変わった。」や「英語の時間があつた。」というだけで、活動内容の詳細を知ることができず、親として不安だとしている。どういった報告を学校から受けたいかとの問いに、指導者の紹介や、他の教科と同じように学年便りで今月の目標などを知らせるか、活動後に詳しく内容を知らせてほしいと答えている。

6. 2. 発音指導について

①小学校英語活動で発音指導は必要だと思いますか？

はい	26	いいえ	1	わからない	3
----	----	-----	---	-------	---

②子どもの英語発音がどのレベルになることを希望されますか？具体的にお書きください。

- ・カタカナ英語は絶対に避けたい
- ・良いに越したことはないが、相手の言っていることを理解して、自信をもって会話できる程度
- ・小学校の間にジャパニーズイングリッシュにならないようにきれいな正しい発音
- ・棒読みではなくとりあえずアクセントをつけて流れるように
- ・外国人と正しい発音で話せるように
- ・外国人に通じる程度
- ・国際社会で通じる程度

- ・海外で通用するぐらい

牧野(2007)の調査では、母親が音声指導重視の小学校英語活動を希望していたことから、今回の調査では、子どもの英語発音の将来的な到達目標について尋ねた。その結果、母親の多くが発音指導を必要としているものの、「正しい発音」「外国人に通じる程度」など曖昧な表現で回答していたので、インタビューで英語発音の具体的な目標について尋ねた。その結果「カタカナ英語ではなく、聞いていて不快感が無く、外国人に聞き直されたい発音」「日本語なまりのある発音は聞きにくいので、相手がストレスを感じない程度の発音」「英語母語話者レベル」「日本語的ではなく、リズム感があり、英語を話した時に周囲から上手に思われるような英語母語話者に近い発音」と、非常に高い目標を持っている。英語指導者として英語母語話者ではなく、英語を第二言語とする外国人が来ることについてどう思うかの問いに、「外国人に慣れることが大事なので良い」とする意見より「正しい発音が身につかないので良くない」という意見が上回っていた。しかし、アメリカ、イギリス、オーストラリアの英語発音の違いを知っているかの問いに、全員がわからないとの回答しており、自分たちの発音コンプレックスが子どもへの期待につながるとしていただ。

6. 3. 保護者の協力について

①母親向けの「英語講座」など学校で開かれた場合は参加されますか？

はい	9	いいえ	6	わからない	15
----	---	-----	---	-------	----

②小学校英語活動に保護者として協力することは可能ですか？（家庭内での協力も含めて）

はい	19	いいえ	1	わからない	10
----	----	-----	---	-------	----

②-1 「はい」を選択された方にお聞きします。どのような協力が可能か具体的にお書きください。

- ・宿題を見たり、簡単な会話の相手になったり歌を一緒に歌う
- ・自分が習った範囲なら辞書を引いたり発音記号を読んだりする

- ・家庭内で子どもの質問にわかる範囲で答える
- ・家にあるものを見て英語で話す、日本の昔話を英語版で読んでみたい
- ・CDを聞いたりビデオを見たり楽しく英語の世界に入っていけるように協力
- ・英語劇や人形劇などで遊ぶ、ゲームなど遊びの中で子どもと一緒に勉強する
- ・意味を一緒に調べたり英語の歌を聞かせたりする
- ・家庭学習の環境作り
- ・宿題を手伝ったり学校でしたことを聞く
- ・学校の要請に全面的に協力
- ・学級便りで書いていけばそれをする

②-2 「いいえ」を選択された方にお聞きします。協力不可能な理由を具体的にお書きください。

- ・時間がない
- ・何を協力していいかわからない
- ・自分に英語力が無い

③保護者が子どもの英語活動に協力すると子どもの英語力は向上すると思いますか？その理由も具体的にお書き下さい。

はい	19	いいえ	3	わからない	8
----	----	-----	---	-------	---

【はい】

- ・家庭での学習が英語力向上に重要
- ・学校でも家庭でも親子で英語に触れると英語が身近なものになる
- ・親が興味のあるものに子どもは興味を示す。親は英語が苦手でも「英語が話せると多くの人と話せて世界が広がる」と英語が話せることはすごいことだと子どもに関心を持たせることができる
- ・疑問を持った時にそばに助言できる人がいるほうが子どもは理解しやすい
- ・親が楽しんで英語の歌を歌ったり意識して家や車内でCDを流すことによって子どもも口に出して発音したり疑問を抱いたりしながら少しずつ向上すると思う

- ・何事も子どもと一緒に取り組み知ることが楽しいことだとわかれば良いと思う、苦手意識を持たせないようにしたい
- ・親も一緒に勉強することで子どもの自信になると思う、子どもは親よりがんばって覚えようと思うのではないか
- ・学校で習ったことを活用しなければ覚えられないので親の働きかけが大切
- ・子どもは親が自分にかかわってくれることが嬉しいので、英語活動に親が協力することで向上につながる
- ・日常生活の中でできるだけ知っている英語を言う、単語を言うなど親子で楽しみながらやっていると英語がもっと身近になる。

【いいえ】

- ・夫婦ともに全く英語力が無いので
- ・持って生まれた才能もあるし、親がやりすぎると逆効果
- ・本人が英語を頑張ろうと思わない限り向上につながらない

【わからない】

- ・保護者に英語力があれば向上すると思うがそうでない場合は何とも言えない
- ・子どもの興味による、興味があれば向上するが、なければ向上に結びつくかどうかわからない

60%以上の母親が英語活動に協力するとしており、それによって子どもの英語力が向上するとしている。協りに消極的な意見として、親の英語力や子どもの意識などが挙げられていた。インタビューでは4名の母親が協力を希望しており、学校から協力内容の詳細な指示があれば良いとしている。協力不可能と答えた母親は、自身に全く英語力が無く、何も答えられないので、子どもに質問されないかどうかいつも不安だとしていた。

6. 4. 英語活動に対する意見

①小学校英語活動について現在不安をお持ちですか？

はい	14	いいえ	7	わからない	9
----	----	-----	---	-------	---

①-1 「はい」を選択された方にお聞きします。それはどのような内容ですか？具体的に
お書きください。

【活動内容について】

- ・すでに習っているので学校のレベルでは物足りない
- ・英語活動の内容は子どもの話ではローマ字や簡単な単語だけ、不安を感じるので会話
のような活動もあってほしい
- ・以前に小学校で教えていた外国人の方が英語になまりがあると聞いたがそれは子ども
にとって良いかどうか不安
- ・英語は国際社会で役立つといいながらアルファベットや単語しか習っていないので不安
- ・3年生3学期の参観が英語だったが、幼稚園児のような歌を歌っただけで1時間が終
わりクラスの半分の子がついていけてなかった、意味があるのか？
- ・外国人の先生の英語授業を参観したが、ダンスや歌で遊んでいるようにしか見えな
かった、クラスの人数も多く月に1回では力がつかない

【活動方針について】

- ・学校によって全く対応が違うことに不公平を感じる
- ・活動日が少ない
- ・学習目標がわからない
- ・1年でどれだけのことができるかわからない
- ・今は外国人の先生だが担任になると先生の負担が心配

【その他】

- ・発話を無理強いすると英語が嫌いにならないか心配
- ・中学、高校、大学や受験で小学校英語が本当に役立つか心配
- ・習っている子と習っていない子のレベル差が心配

①-2 その不安を和らげるためにどのような対策があれば良いと思いますか？具体的に
お書きください。

【活動内容について】

- ・活動日を増やし、活動内容をプリントで報告してほしい
- ・外国人ともっと接する機会が多いほうが良い

【活動方針について】

- ・早く基準を決めて格差の無い英語活動を導入をして欲しい
- ・活動内容の報告、最終目標を明らかにして欲しい
- ・外国人や日本人の資格の持った人に授業をしてもらいたい

【その他】

- ・あくまでも楽しい英語としてとらえ、無理強いせず楽しめる雰囲気があれば良い
- ・小中高と一貫性のある授業、定期テストでのチェック

約 50%の母親が現在の英語活動に不安を持っていることがわかった。

7. 考察

まず、英語活動の報告についてであるが、母親は子どもの英語活動に興味を持っており、定期的な活動内容を報告することを学校に希望している。子どもたちが何を学んでいるかを知ることにより、家庭内で英語を話題にすることができ、子どもが英語を身近に感じるようになる。英語活動を参観することにより、家庭で学校と同じような英語遊びや歌を親子で歌うといった復習も期待できる。但し、子どもに過度な期待をする親が出てくる可能性があるため、その点については学校から注意を促すことが必要だ。

親が子どもに期待する発音の到達目標が、日本語の影響が出ない英語母語話者に近いレベルであることは、親の発音コンプレックスを考えると理解し難いことではない。しかし、活動時間数や指導者の問題を考えると、その目標到達は容易ではなく、子どもにプレッシャーを与える可能性が高い。

世界に目を向けると、英語母語話者数よりも第二言語あるいは外国語として英語を用いる話者の数が多くなっている。その点を考慮すると全ての日本人英語学習者がネイティブレベルの英語発音を目指すより、母語の影響があってもコミュニケーションに問題のないレベルの英語発音を、学習の目標にする方向性があってもよいのではないだろうか。(河内山ら 2007)

英語発音が小学校英語活動の目的ではなく、英語を楽しむことが優先されるべきで、英語でコミュニケーションしたいと子どもが思うことが大事である。母語の影響が出ることを恐れて英語が話せない状況は、子どもを英語から遠ざけてしまう。

大津(2007)は、発音、語彙、文法と意味、文章法などの知識と、それを実際に使う技術を身につけることが必要で、それを運用できて初めてことばが使えるのであって、発音だけ上手になっても意味がないとしており、さらに、子どもが良い指導者に恵まれ、良い発音が身についたとしても、それだけで英語ができると勘違いする危険があり、日本人離れした発音に目を細めていては、親はその危険性を察知することができないと指摘している。これらを考えると、親は英語を楽しみながら発音も上達すれば良い程度に子どもを見守るのが良い。

保護者の協力については、親の苦手意識が強い場合は無理に協力を求めるべきではない。親と子どもが楽しんで英語に触れることが、子どもの学習意欲向上につながる。これについてはまとめの項目で詳述する。

英語活動への意見であるが、調査対象者は子どもに幼児期から英語を学習させているので、歌や単語レベルの簡単な活動内容に不満を感じている。また、全国的に統一された指導目標やカリキュラムが無いことにも不安を持っている。これについては、自治体や学校単位で独自の目標や指導体制を整えることができるのではないだろうか。

8. まとめ

現在の小学校英語活動は、地域や学校によって活動内容にばらつきがあり、子どもにより良い英語学習環境を整えたいと考える親がそれを不安に思うことは十分に理解できる。学校から活動内容の報告が乏しい場合は、より一層親の不安が煽られるであろう。小学校英語活動の意義や目的については、高レベルの英語発音を習得するというような誤った考えを持った親もいるようであるが、英語母語話者並の英語力をつけるために小学校で子どもが英語を学ぶのではない。あくまでも子どもが英語は楽しいと思うことが

重要で、学校は親の意識改革として、なぜ小学校で英語活動を行うかを明確に伝えなければならない。その後、親の視点も考慮しながら協力を得て、子どもたちに充実した英語活動を体験させる。

ここで子どもたちの効果的な英語学習のために、小学校英語活動への保護者の協力について提案する。英語が全くできない親もいるので「子どもに英語を教える」ことは依頼しない。学級便りで簡単に英語活動の内容を紹介し、親が英語について子どもと家庭内で話せるような状況を作る。子どもが学校での英語活動内容を家庭内で話題にすることや、英語活動に必要な絵を描いたり小道具を自宅で作ることを宿題にする。例えば、次回の英語活動で自分が欲しいものを英語で発表する場合、もしピンクのカバンが欲しいければ、その絵を家で描いて来ることにする。宿題をする際、“pink bag”と子どもが親に絵を紹介したり、親が子どもに英語で話しかけるかもしれない。家庭で英語が親子の話題になることは、子どもが教室以外でも英語に触れる良い機会になる。簡単な英会話集などの配布も家庭での親子英語に役立つ。また、参観や親子英語活動など、親が子どもと一緒に楽しめる英語活動も子どもの意欲向上につながるのではないか。

本研究では、調査協力者の人数が少なく、子どもに幼児期から英語を習わせている英語教育に前向きな母親を対象としていることから、結果を一般化することはできない。しかし、本稿での考察や提案が、今後の小学校英語活動にヒントを与え、英語学習に意欲的な子どもが育つことを期待したい。

参考文献

Brewster, J. & Ellis, G. & Girard, D.(2002). *The Primary English Teacher's Guide*.

England: Pearson Education Limited.

Dunn, Opal. (1994). *Help Your Child with a Foreign Language*. Singapore: Berlitz.

河内山真理、山本勝巳、山本誠子、牧野眞貴、有本純(2007). 「日本語話者の英語発音
—容認性に関する実証研究—」『関西国際大学コミュニケーション研究所叢書』
第5号. pp. 23-31.

小西千鶴子(2006). 「公立小学校の英語活動に対する保護者の意識調査」『外国語教育メディア学会大46回全国大会発表論文集』 p.7.

牧野眞貴(2007). 「幼児英語学習者 親の意識調査 —学習の目的と小学校英語活動への期待—」『外国語教育メディア学会大47回全国大会発表論文集』 pp.92-93.

牧野眞貴(2007). 平成 19 年度文部科学省「社会人学び直し」委託事業小学校英語活動指導力向上講座 配布資料.

文部科学省(2007). 「平成 18 年度小学校英語活動実施状況調査 集計結果」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/03/07030811/004.htm

永井淳子(2001). 「学習意欲を高める環境作り」中山兼芳編『児童英語教育を学ぶ人のために』京都：世界思想社.

大津由紀雄(2007). 『英語学習 7 つの誤解』東京：NHK 出版.